るもい地域 化石MAP

化石に触れるルート　68P

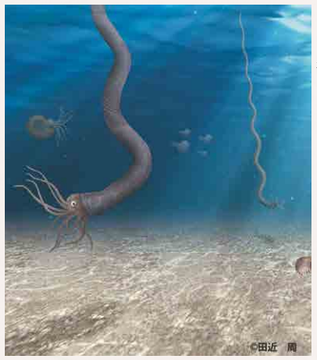
1　天塩川歴史資料館（天塩町）
2　初山別村自然交流センター（初山別村）
3　羽幌町郷土資料館（羽幌町）
4　小平町文化交流センター（小平町）
A　中川町エコミュージアムセンター（中川町）
B　沼田町化石体験館（沼田町）
C　滝川市美術自然史館（滝川市）
D　三笠市立博物館（三笠市）
E　札幌市博物館活動センター（札幌市）
F　北海道大学総合博物館（札幌市）

▲ハボロハナカセキ（羽幌町郷土資料館蔵）

0　25　50km

「ゆるふわパーマ」のアンモナイト！？

2017年7月、羽幌町から産出した約8,600万年前に生きていたあるアンモナイトが、世界で初めて発見された「新種のアンモナイト」として研究発表された。その学名は、ユーボストリコセラス・ヴァルデラクサム（*Eubostrychoceras valdelaxum*）。ラテン語で、「太めの巻き髪（=*Eubostrycho*）」+「角（=*ceras*）」+「超、かなり（=*valde*）」+「ゆるい（=*laxum*）」という、いわゆる「超ゆるい巻き髪（ゆるふわパーマ）」のアンモナイト」という意味の学名である。このアンモナイトは、名前の由来のとおりかなり変わった形をしており、バネを極限まで引き伸ばしたような形をしている。このようなアンモナイトを「異常巻きアンモナイト」といい、北海道からは 様々な種類の異常巻きアンモナイトが産出することで知られ、今も新種のアンモナイトが毎年のように発見されている。



©田近　周

◀ユーボストリコセラス・ヴァルデラクサムの生態復元図（田近 周氏作画）

▶発表された新種アンモナイト「ユーボストリコセラス・ヴァルデラクサム」（三笠市立博物館所臓）

20 mm

RumoiArea × Fossil Journey

るもい地域 化石旅

るもい地域 化石旅

約1億年前のアンモナイトや1200万年前のショサンベツカイギュウなど、
人類がまだ登場する前の化石が見つかるるもい地域。今は絶滅し、化石でしかその姿を見ることができない古生物たちの痕跡を、るもい地域の資料館を巡ることで探ることができる。

③羽幌町郷土資料館（羽幌町）

④小平町文化交流センター（小平町）

①天塩川歴史資料館（天塩町）

②初山別村自然交流センター（初山別村）

太古からのメッセージ

意外と知られていないが、北海道では化石が多く産出する。中でも、保存の良いアンモナイトが豊富に産出する地として、北海道は世界屈指の存在なのである。アンモナイトは、イカやタコと同じ仲間である頭足類と呼ばれるグループに属し、その多様な形態と幾何学的な美しさから、多くのファンの垂涎の的となっている。るもい地域では、小平、古丹別、羽幌地域の内陸部に、蝦夷層群と呼ばれる約1億年前の海中の中で堆積した地層から産出する。

初山別地域からは、約1200万年前に生きていたショサンベツカイギュウが産出した。カイギュウ類は、現在のマナティやジュゴンと同じグループに属する海に生きた哺乳類である。これまで日本で見つかったカイギュウ化石は冷たい海を好むものがほとんどであったが、ショサンベツカイギュウは、暖かな海に棲んでいた種類であることが判明し、かつ世界初の親子（親と胎児）の化石であることがわかっている。

このように、るもい地域の化石は、生命がたどった進化の歴史や当時の環境など、多くのメッセージを私たちに与えてくれる。

オロロンまっぷ

るもい地域ここ路旅Version

オロロンまっぷとは？

留萌観光連盟が制作・発行する、各市町村が一目で分かるイラストが満載の手描き観光地図です。留萌管内8市町村に天売島・焼尻島版を合わせた全9枚が、各市町村の観光協会を通じ各市町村内で配布されています。各市町村のオロロンまっぷをつなげると、なんと1枚につながった留萌管内の手書き地図（約3m）が完成します！

※本誌に掲載している留萌観光連盟発行のオロロンまっぷに掲載されている情報は、2017年12月現在の情報です。

WEBでも配布しています！
持ち歩きに便利♪

http://www.rumoiclub.net/map/

オロロンまっぷ　検索

オロロンまっぷの使い方

イラストが満載の手描き観光地図「オロロンまっぷ」に、このガイドブックの8つの旅ページに登場する場所を、ページ数と番号で記してあります。番号は8つの旅ページの色に対応し、色分けをしています。

8つの旅 色一覧

- P.4 00 .....るもい地域 絶景旅
- P.16 00 .....るもい地域 いきもの旅
- P.22 00 .....るもい地域 歴史旅
- P.32 00 .....るもい地域 グルメ旅
- P.46 00 .....るもい地域 鉄道・バス旅
- P.52 00 .....るもい地域 アウトドア旅
- P.60 00 .....るもい地域 芸術を巡る旅
- P.66 00 .....るもい地域 化石旅

たとえば

旧増毛小学校が P.25 27 緑色の27番なので、緑色＝るもい地域歴史旅のカテゴリの27番として本誌25ページに旧増毛小学校が掲載されていることがわかります。

※マップの範囲外の場所には丸囲み数字が記されていないので、解説の所在地を参考にしてください。

オロロンまっぷを使いこなして
るもい地域観光に役立てよう♪

Rumoi Area × Fossil Journey
化石に触れるルート

化石が伝える太古からのメッセージ

北海道は化石の宝庫。るもい地域からは、約1億年前のアンモナイトをはじめ、1200万年前に生きていたショサンベツカイギュウなど貴重な化石が多く発見されている。また、るもい地域を中心にその周辺では化石を観られる資料館が多い。太古の生物からのメッセージを受け取る旅へ出かけてみよう。

1 天塩川歴史資料館
天塩町新栄通6丁目

平成7（1995）年8月に天塩町内で発見された、約3百万年前のものと推定されるテシオコククジラの化石を展示している。

問い合せ先／01632・2・2071
開館時間／5月1日～10月31日の10時～17時
休館日／月曜
入館料／200円、高校生以下無料

2 初山別村自然交流センター
初山別村初山別155・1

村内で発見されたショサンベツカイギュウとその胎児の化石の復元骨格を並べて展示している。

問い合せ先／0164・67・2136
開館時間／9時～22時
休館日／毎月第2・第4日曜、12月30日～1月5日

3 羽幌町郷土資料館
羽幌町南町20・1

羽幌町の歴史が詰まった資料館。2階にはアンモナイトを中心に花の化石（ハボロハナカセキ）やハボロダイオウイカのレプリカ、大きな貝の化石が並んでいる。

問い合せ先／0164・62・4519
開館時間／5月1日～10月31日の10時～16時
休館日／月曜
入館料／210円、高校生以下無料

4 小平町文化交流センター
小平町小平町356・2

ホールに大きなクビナガリュウの骨格標本や、アンモナイト、ウバガイの化石が展示されている。このほか、小平町には「道の駅おびら鰊番屋」にもアンモナイトの化石が展示されている。

問い合せ先／0164・56・9500
（小平町教育委員会社会教育課社会教育係）
開館時間／9時～22時
休館日／年末年始

A 中川町エコミュージアムセンター
中川町安川28・9

世界屈指のアンモナイト産出の町、中川町で発見されたクビナガリュウや大型アンモナイトなどの化石、町の歴史などが展示されている。

問い合せ先／01656・8・5133
開館時間／9時30分～16時30分
休館日／月曜（冬期間は土・日曜、祝日）、年末年始
入館料／200円、中学生以下無料

B 沼田町化石体験館
沼田町幌新381

9千万年前から3百万年前の幅広い年代の地元産の化石を展示。体験実習室では、化石のクリーニングやレプリカ作りができる。

問い合せ先／0164・35・1034
開館時間／4月29日～11月3日の9時30分～17時
※11月4日～4月28日休館
休館日／月曜（祝日の場合は開館）祝日の翌日（連休は最後の祝日の翌日）
入館料／大人500円、小・中・高校生300円

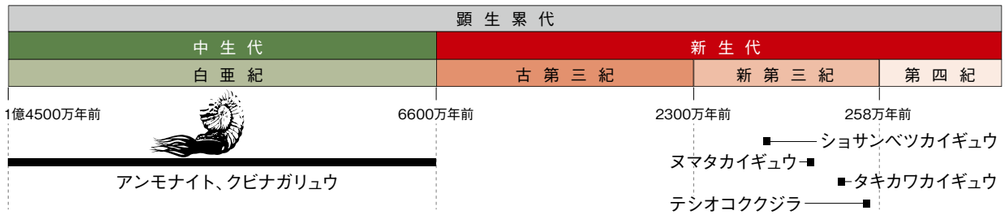
C 滝川市美術自然史館
滝川市新町2丁目5・30

一つの建物の中に美術部門と自然史部門を併せ持つ博物館。タキカワカイギュウや恐竜の骨格標本を展示。

問い合せ先／0125・23・0502
開館時間／10時～17時
休館日／月曜（祝日の翌日、年末年始）
入館料／大人620円、高校生370円、中学生250円、小学生120円

D 三笠市立博物館
三笠市幾春別錦町1丁目2・1

アンモナイト化石の所蔵数日本一。国内最大を含め、一面に展示されている大型のアンモナイト群は圧巻。

問い合せ先／01267・6・7545
開館時間／9時～17時（最終入館16時30分）
休館日／月曜（祝日の場合は翌日）冬期間の祝日（12月～3月）、年末年始
入館料／大人450円、小・中学生150円

化石（古生物）が生息していた地質時代